

傳文庫

三十一

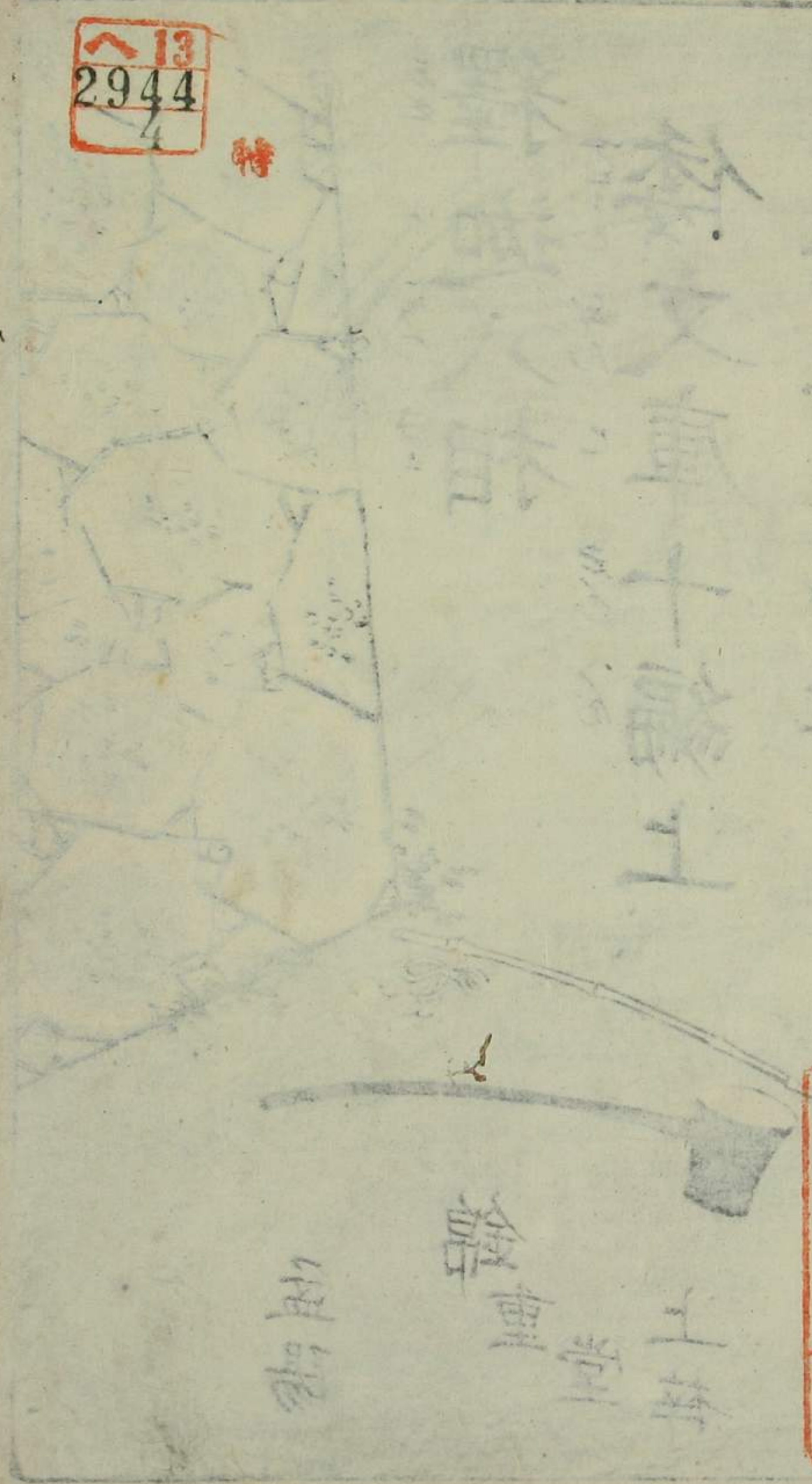


へ13
2944
4

特

無文直十餘上

一書...
...
...



昭和九年
七月九日
購

上
...
...

...

釋迦八相

倭文庫十編上

万亭應賀作
一陽齋豐國画

倭

文

庫

十編

万亭應賀作
一陽齋豐國画
錦重堂板



孟陽

錦重

堂

上梓

只人
因政画



倭文庫十編

万亭應賀作

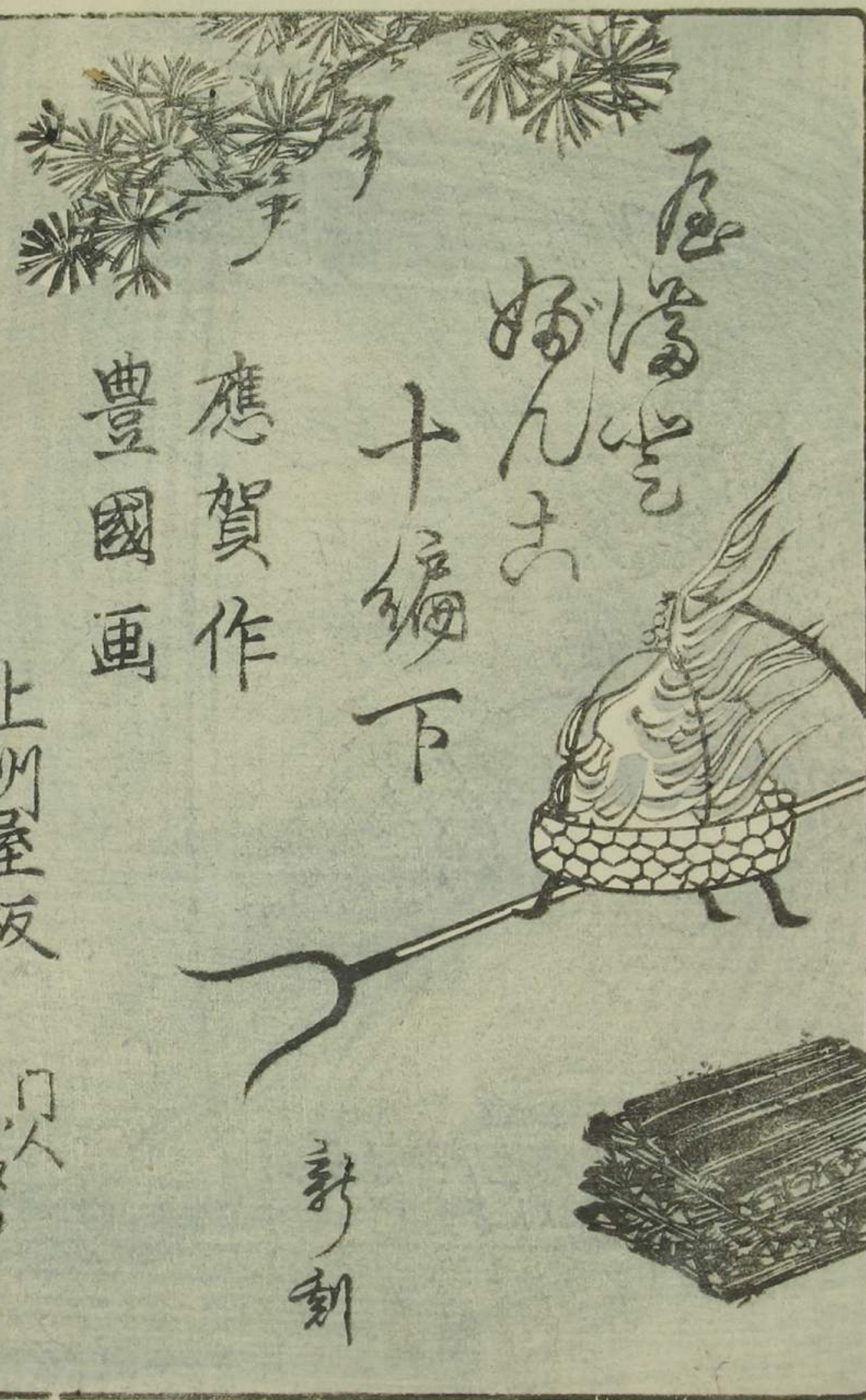
一陽齋豊國画

錦重堂板

上

下





應賀作
豊國画

十編下

上州屋板

新刻

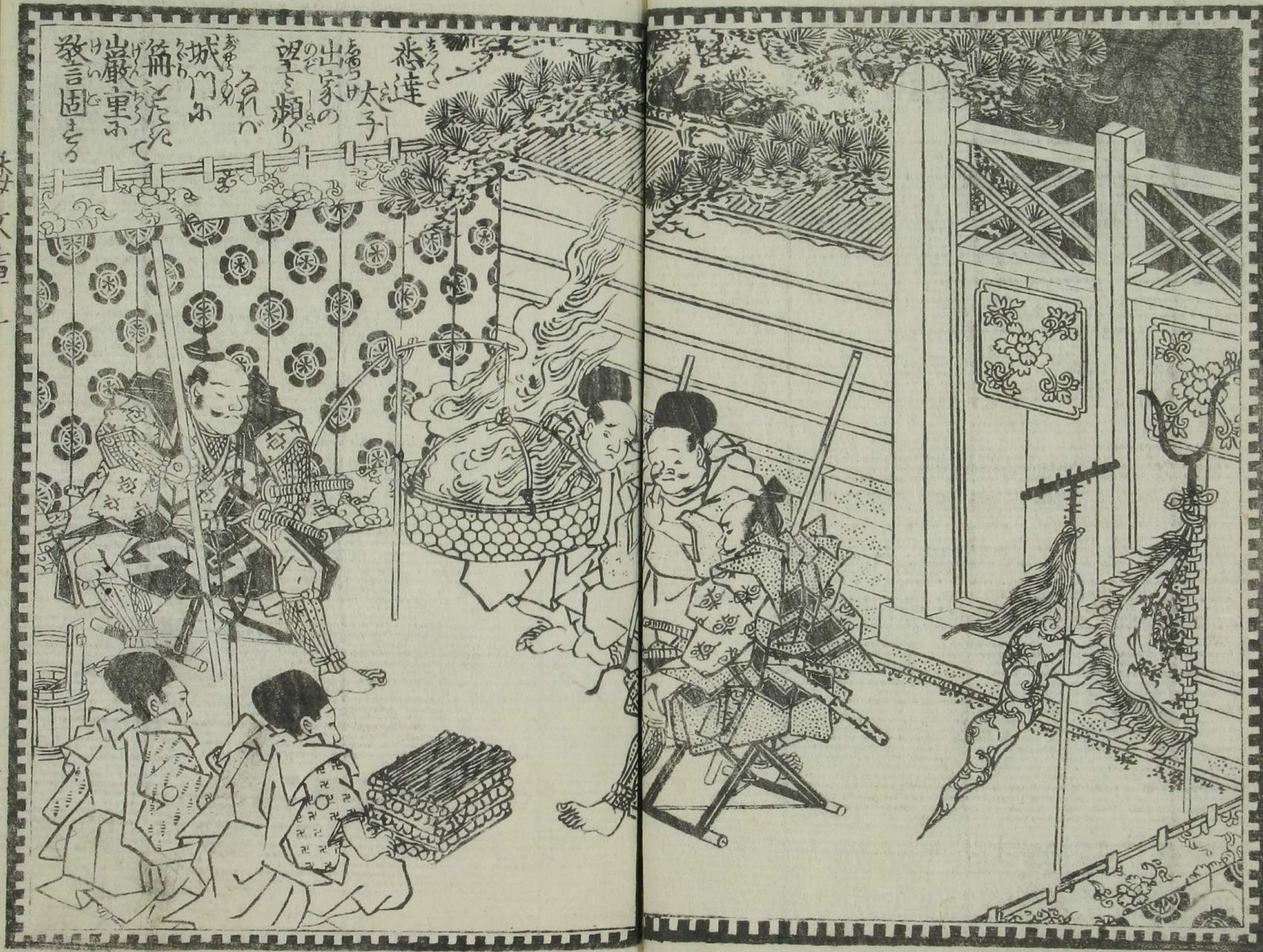
口人
毛政如

釋迦八相倭文庫拾編序

書曰太子成人て出家の發願切られ父帝波婆羅門
優陀夷を召て太子の友とす一ふれ諫之と止とる十
七歳中て耶輸陀羅女を娶れと契室の念更なる十九
歳中て不老無病不死不別此四の願ひ叶は出家の望を
切へと云帝愁ひて是を得と不能今朕嗣子に有一子バ許ん
とあり太子をさるち耶輸陀羅女を腹と指さるバ忽羅羅
天より度没て化託あり其夜捷歩の馬小乗り車送と連
て置持山へ起く時小周の昭王四十四年二月八日と云此説
異とみる戲作のたまふと讀め

弘化五戊申年孟陬發鬻 万亭應賀識

倭文庫





悉達太子
 十九歳
 懐妊の姫
 振拾車匿と
 連て檀持山の
 山平靈へ
 面向する

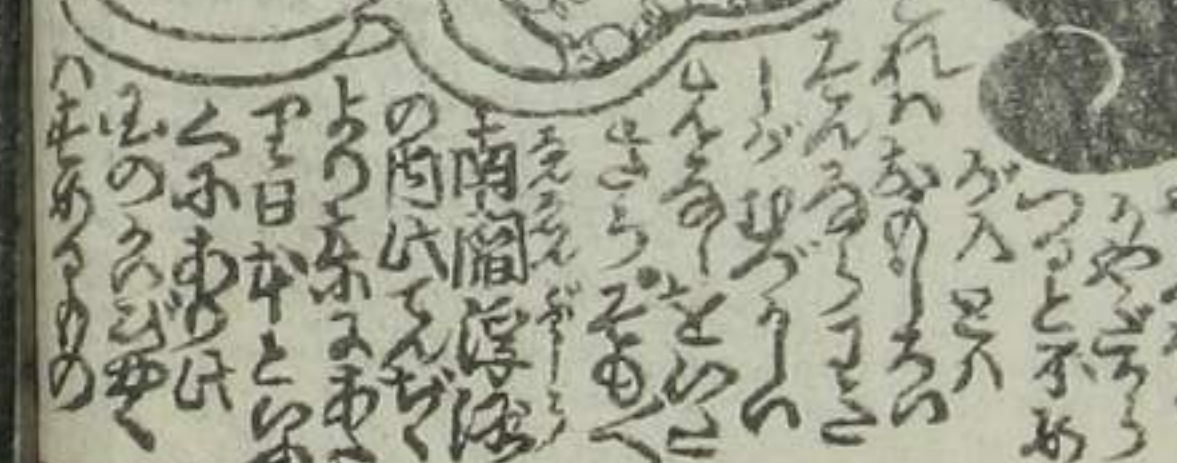
舎人
 車匿

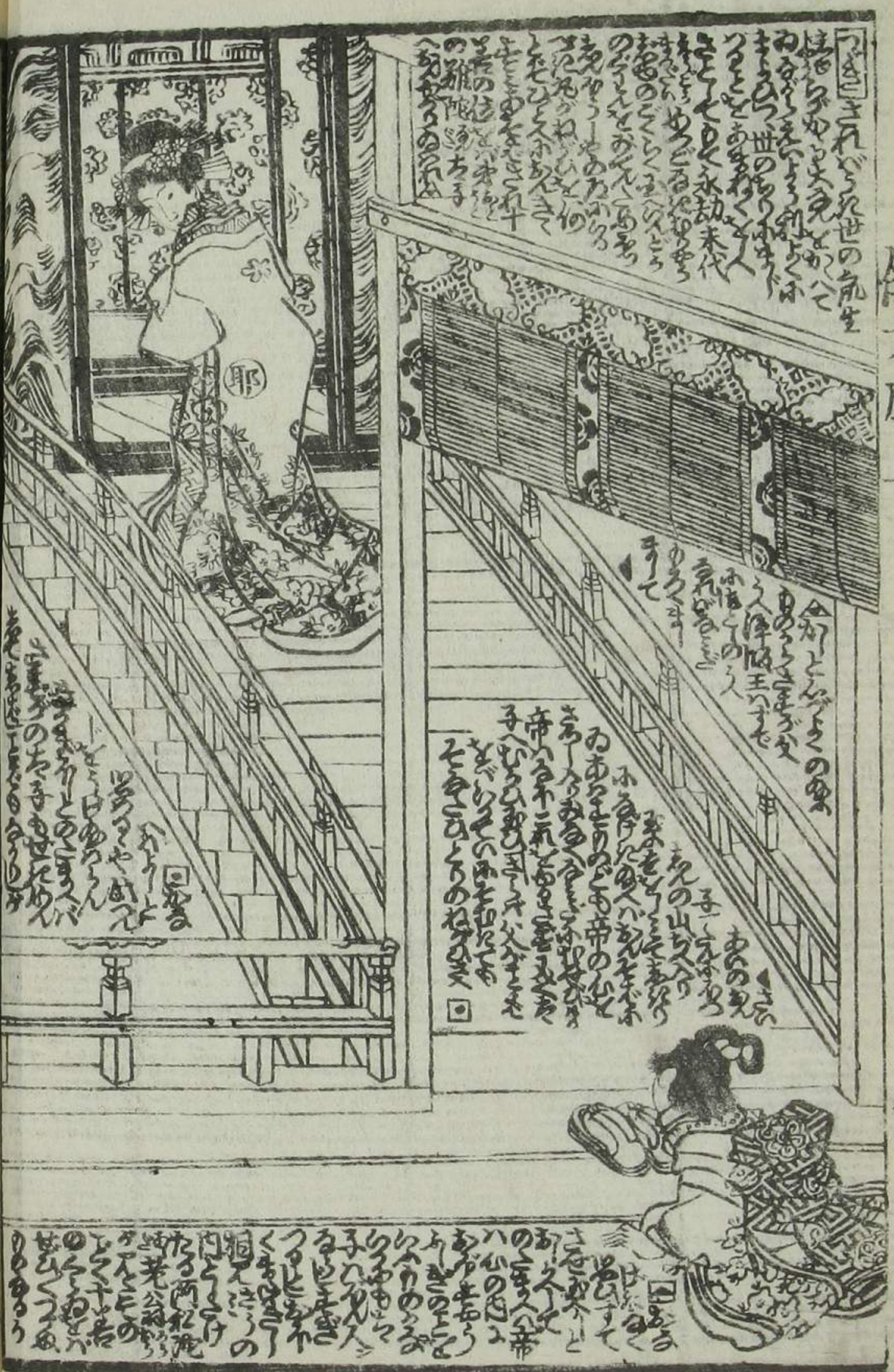
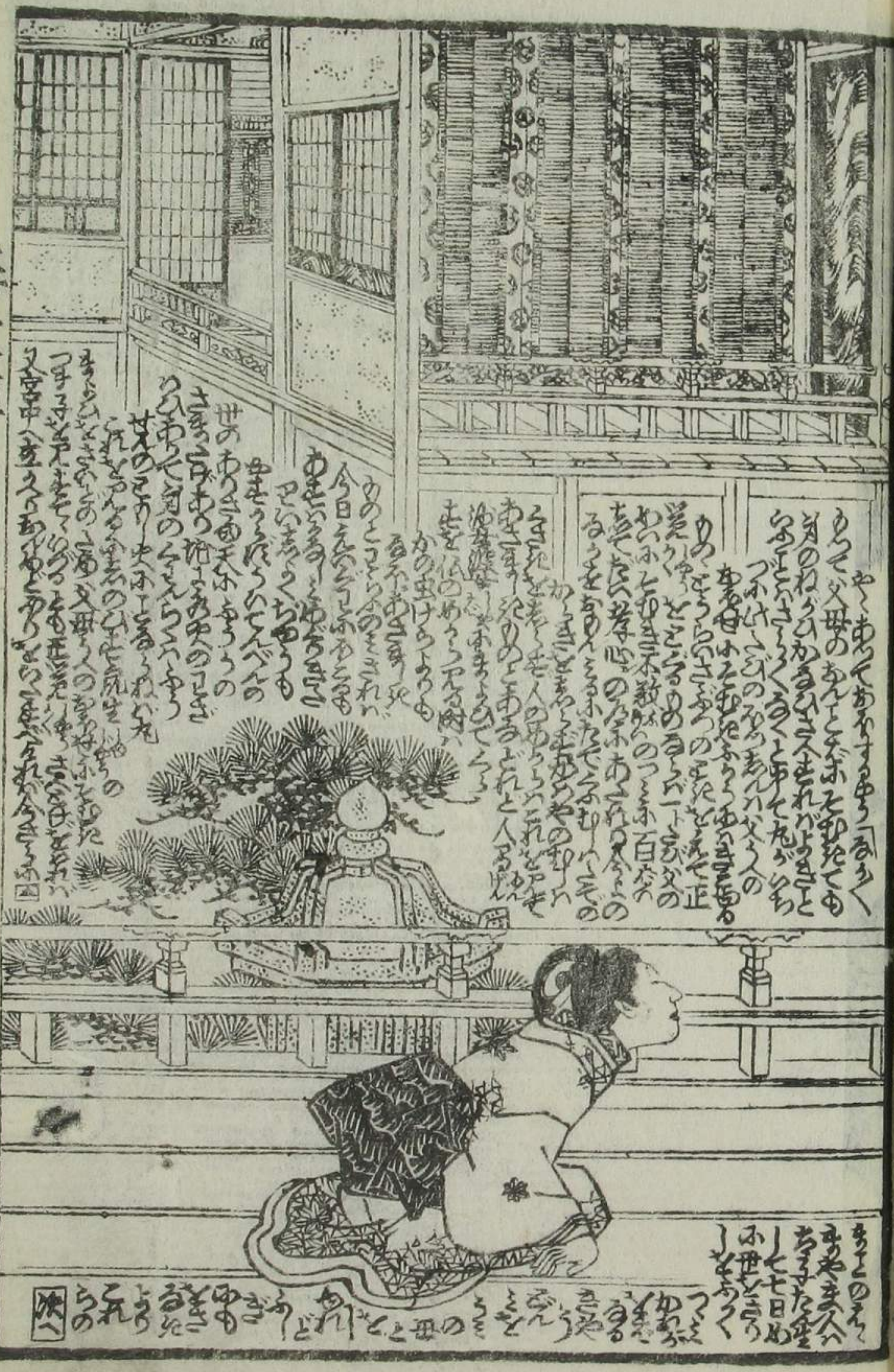
悉達太子



耶輸陀羅女

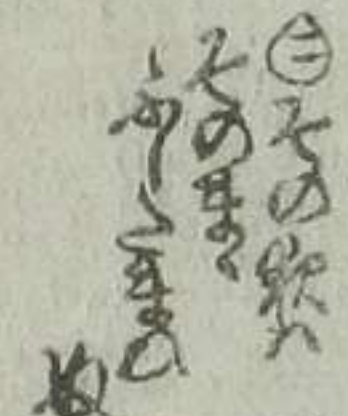
せいでつゝ女とらゐるのさうさ
 やどそれですうさゝのさうさ
 しがらみをうけうさゝのさうさ
 てぢいよサケやうさゝのさうさ
 とかけてゐるとさうさゝのさうさ
 てみえうさゝのさうさ
 けぬぬあうさゝのさうさ
 かんみんあうさゝのさうさ
 ゐうさゝのさうさ
 てやぶれとさうさ
 せうさゝのさうさ
 せうさゝのさうさ

[illegible]



○さういふ
あつかひ
らひて
あるに
ふまゝふ
そゝるは
ちぢつを
かきよめ
たえおふ
ゆづり香の
くはれぬぐの
みかれぬぐの
うぬたけやう
のせんされこそ
あれ人おろし人の
るうもすこある
人とおのへうち
あけてうきとせが
ころのとことち
あらさんか人か
さくらたのときど
かきてたのうや
たじかりなるそあ
へんどサキといふ
とのまよりやを
さうあり。おの内お

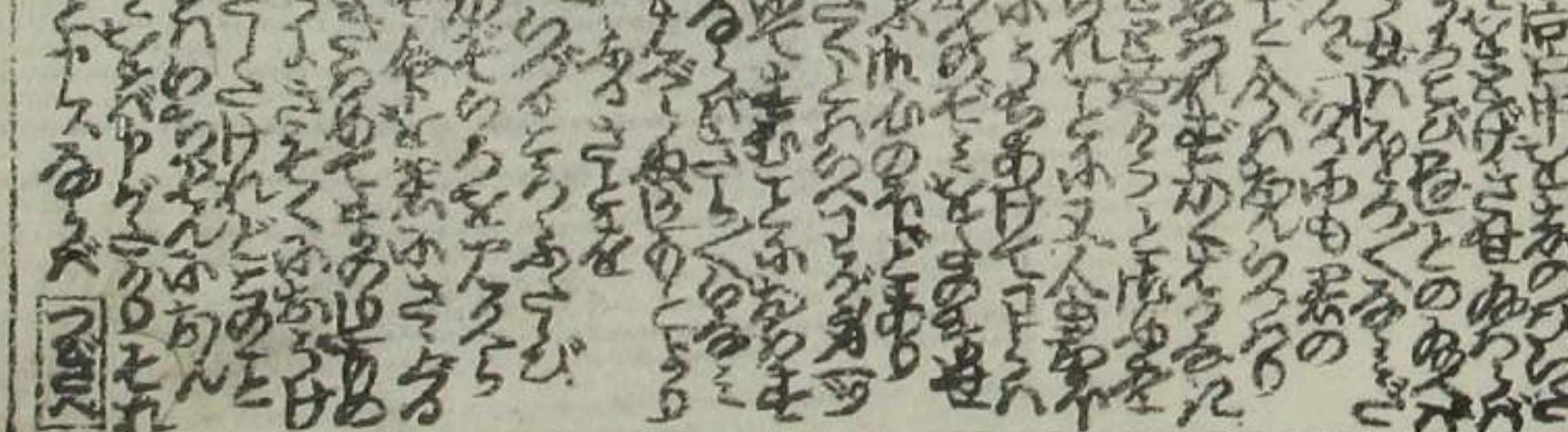
[illegible]

[illegible]

卷之六

[illegible]

四化をせんまゆあひひもちあふあてのあふあ
 うそそりゆあてあふああふああふああふあ
 あふああふああふああふああふああふあ
 あふああふああふああふああふああふあ
 あふああふああふああふああふああふあ

[illegible]

[illegible]

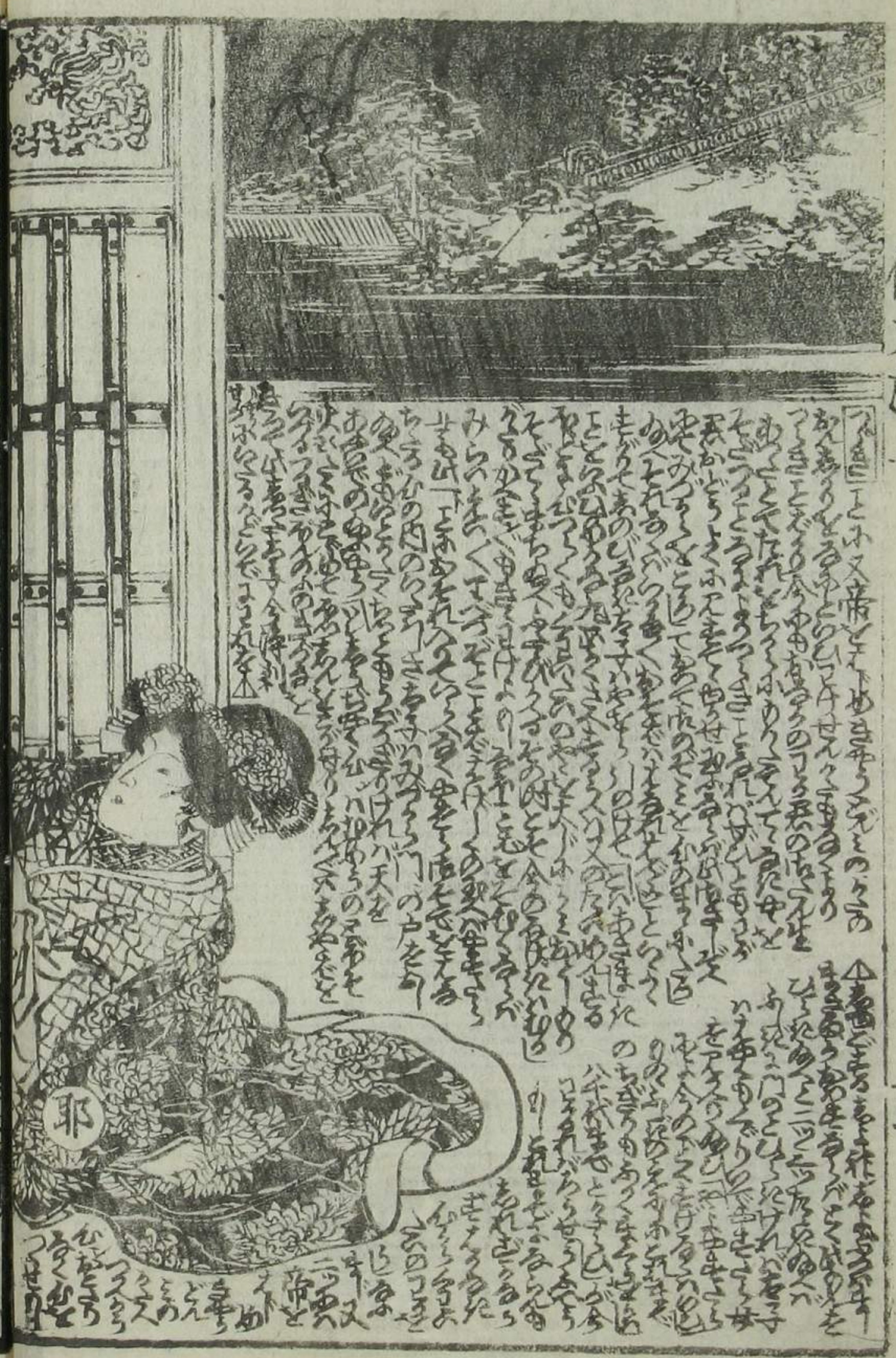
A black and white illustration of a woman in a kimono sitting on a low table, looking at a scroll. The scroll contains Japanese text. The woman has a large flower in her hair. The table has decorative drawers with oval handles.

[illegible][illegible]

ついでに、この宮
みどころやうの
ひめやかさげ
さまのおき
ふりかへ
あまた
られ



この世は夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり



この世は夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり
世に生きたるは夢の如きものなり

又さきよりいふやうに
 れのちひなむとてこけ
 おいせんをわたりける
 みづのうへへてまじり
 くらめて置特山をど
 こひのたふしはく
 るのをみるごときハ
 こころをそそぐ世と
 なつてもすまじ
 までお方の心をそ
 こめおきてゐるから
 世のうつりのまじり
 春をんことちかたま
 むいふもそまじり
 やみせぬといふ
 今三つも
 今このつ
 中に入ら
 らせつちとて
 うとうやと
 ノミをさ
 くらかなり
 くちらの
 とあわ
 つつれが
 とも
 いふ



[illegible][illegible]



A detail from a page in the Voynich manuscript, showing a drawing of a plant or tree structure. The drawing is made in dark ink on a light-colored, aged paper. It features a central vertical stem with several horizontal branches extending to the right. The branches are adorned with small, dark, circular or oval shapes, possibly representing leaves or seeds. The overall style is simple and schematic, characteristic of the Voynich manuscript's illustrations.



文庫

万亭應賀作



万亭應賀作
此は萬亭應賀の作なり
萬亭應賀は江戸の
名僧なり
此の畫は萬亭應賀の
筆なり
萬亭應賀の畫は
江戸の名僧の
筆なり

一陽齋豊國画



文庫
一陽齋豊國画
此は一陽齋豊國の作なり
一陽齋豊國は江戸の
名僧なり
此の畫は一陽齋豊國の
筆なり
一陽齋豊國の畫は
江戸の名僧の
筆なり

文庫

文庫

万亭應賀作
一陽齋豐國画

釋迦八相

倭文庫上帙

嘉永二年己酉春新板



門人
因政画

上州屋重藏版

万亭應賀著
一陽齋豐國画

屋満全

婦人
古

十一編

嘉永二己酉新刻



倭文庫十一編

一陽齋豊國画



下

万亭應賀作



上

錦重堂版

應聖化
多國画

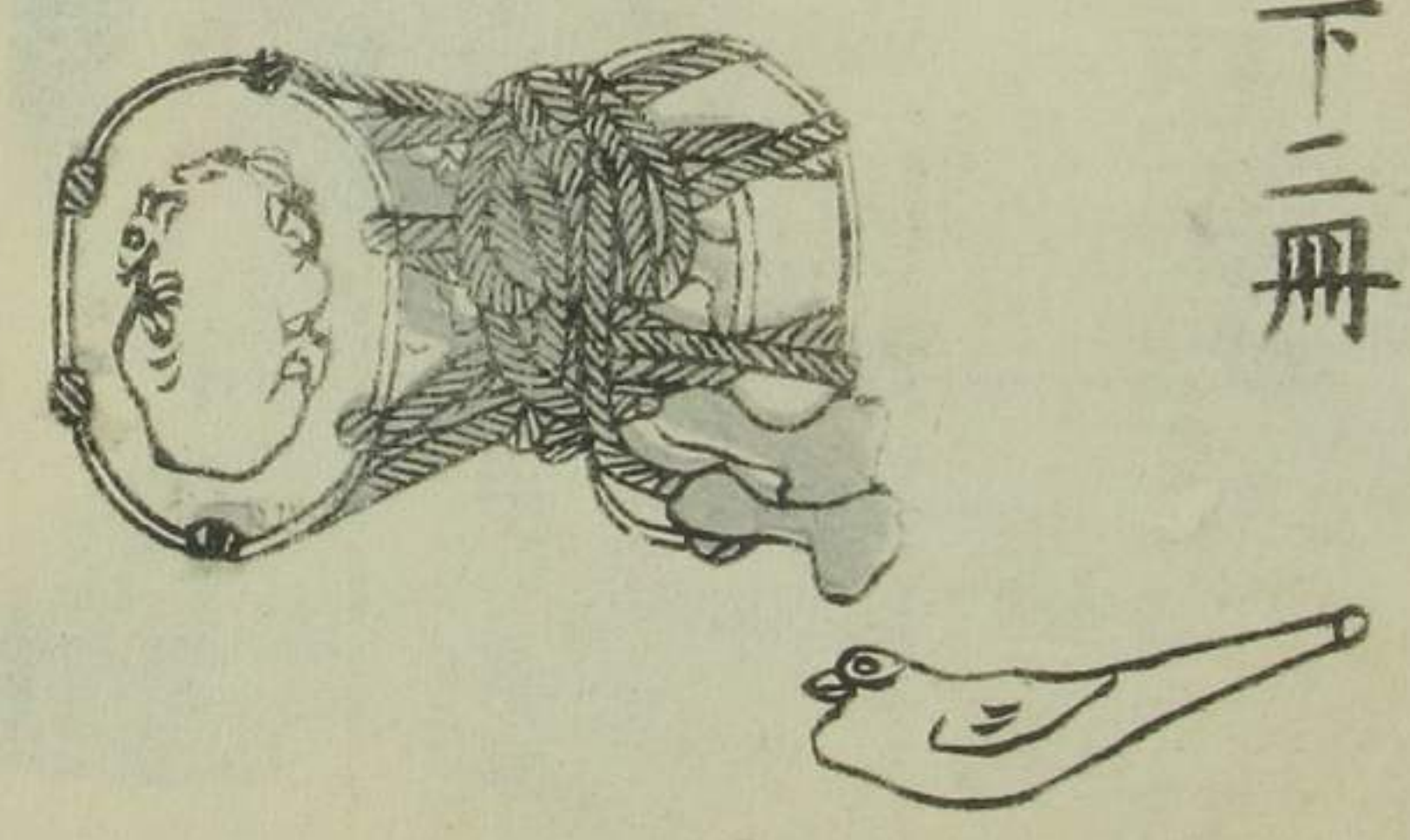
每篇合本上下二冊

口人國政口

倭ふ厚十編下

乙酉壬子利

上巻をみる様



一

釋迦八相倭文庫拾壹編之叙
夫經も唄ふるべ則唄る唄も又經の續べ則經也され
唄ふ等し此冊紙の巻々も大乘妙典と看時を
佛淨土の道ある茲とて邪正一如卯月八日天上天下
指め世尊の姿左のあ手ハ郭公と云身形右の
初松奥てろ庵かけ絲の仕案負る相立の費
言提婆女とての戲とて耶輸陀羅女が息及艱
芳を倭育の女氣質ふと擬へ奉公とる身の
人情と述る而已

嘉永二年巳酉の春

万亭應賀誌

倭文庫



悉達太子密小迦毘羅城と
 立出ぬり跡を王宮騷動
 三女及び宮守の武官官女の
 輩鞠問ふある于時周昭王
 四十四年二月八日
 日本ハ鷓鴣草背
 不合尊庚寅
 の日當る

優陀夷



耶輸陀羅女



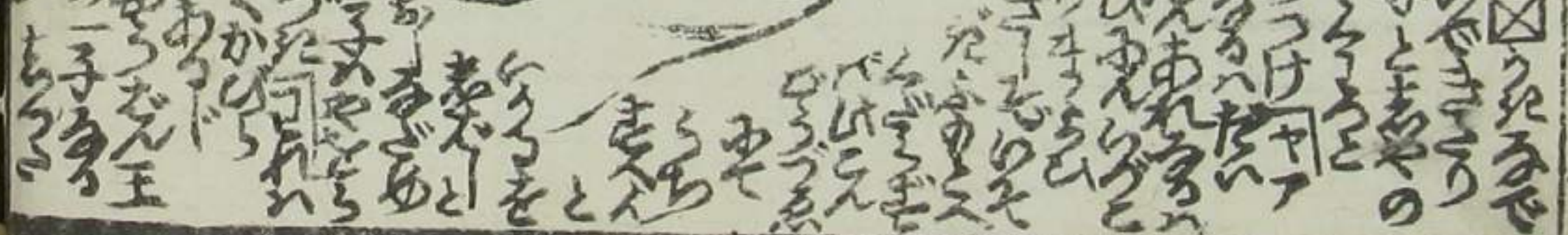
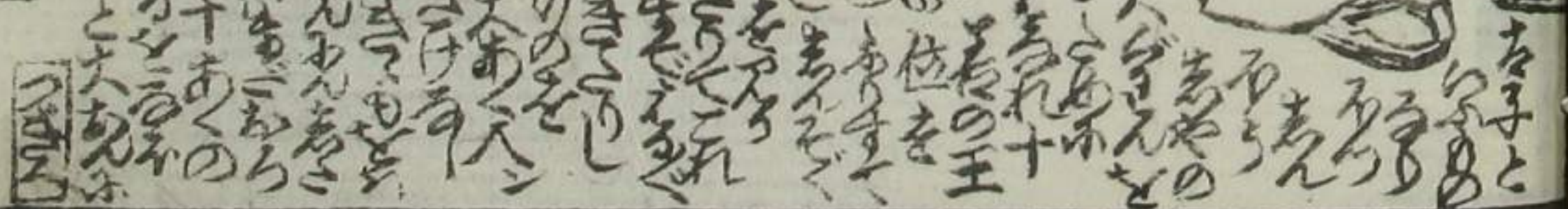
瞿陀弥女

車窓の房

野鹿女

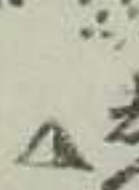


□うねるで
 りきまての
 を子とあやの
 くどろりとこ
 ねめつげヤア
 それさへたい
 あゝえあれさ
 おいおいらと
 よりのちひ
 きりむのそ
 たふあス
 ぐんぐん
 べけん
 うづろ
 せ
 まん
 と
 いを
 素人
 素人
 あやめ
 こまや
 ひかまつた
 はらごころか
 事うのあり
 あやめん王
 の二子あり
 ちひ

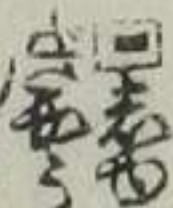
[illegible]

隋文歷十一

(Faint handwritten Japanese text)



宮中



系女及車上

[illegible][illegible]

[illegible]

永夢文庫上

[illegible]



[illegible][illegible]

うちよけふたれたちのせ
うけとてあむらふ
いざちまたの
いそぐちかたの
だつをのこ
そりあふやうに



へらふちや人のしらふさうにさえおわ
 まるあけふのう
 一七そのまふわじ
 のまふはわとるく



○とてゑんるれとけとあつゆす
はあ甘んてとつとんとあつゆす
とつとてとてとてとてとてと
あつゆすはとてとてとてとて
はとてとてとてとてとてとて

一、（右）
中
左
右
下

(Faint handwritten notes)

とんぼのうたの歌
せをけておきう
あやうとておひの
おろそをあらかる
さうとておひの
さうとておひの

[illegible][illegible]

ちやうどやうなものを
 せよと云ふは、その
 せよと云ふは、その
 と云ふは、その
 せよと云ふは、その

のち二、三や年の丹ア
 りのひまをせいでく
 りたやありたりと
 るるにわづらふもの
 かなうものもあはれ
 なることぞなほ
 ぬえとていへ
 とのあつたか
 たるはさうぞ
 らへんが
 ひじきあ
 けそしや

おんの
とちえん
あてはうふ
うきをさるやうなまきさめ
あんなくあつくりまきこるふかぬあ
つたかくしむきしたけものあひのすくらふこの
なるりくつげせしむてあふらふべきなり

A woodblock illustration of a woman in traditional Japanese court dress (kariginu). She has her hair styled in a bun (chonmage) and is wearing a patterned robe. She is depicted from the waist up, looking downwards with a somber expression. The background is plain.[illegible]

おめれなす
ゆとせ
その

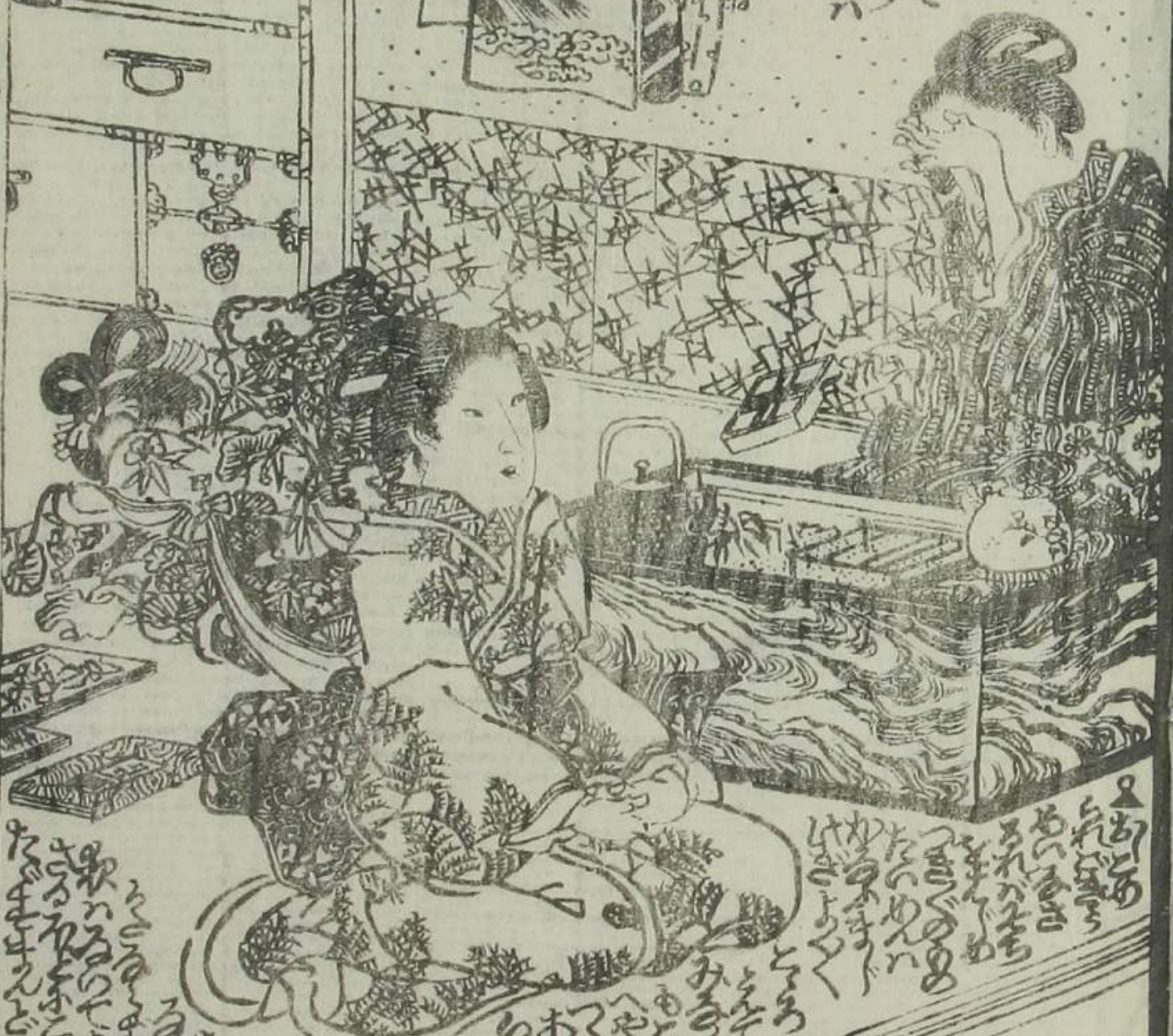


作
文
庫
十

十

いかにいふにせむ
もろかれみまひ
ふたつあふと
あんとへるまう

一、いづれのだんをいふか、いふに
 ちがひて、おかしき事いふべし。いふに
 とおかしき事いふべし。いふに
 ちがひて、おかしき事いふべし。

[illegible][illegible][illegible]

倭文庫拾貳編



上

万亭應賀作
陽齋豊國画

嘉永二年
乙酉春

新彫



下

上州屋版

釈迦八相

屋敷

ねんま

括式金む

下はま

應賀作

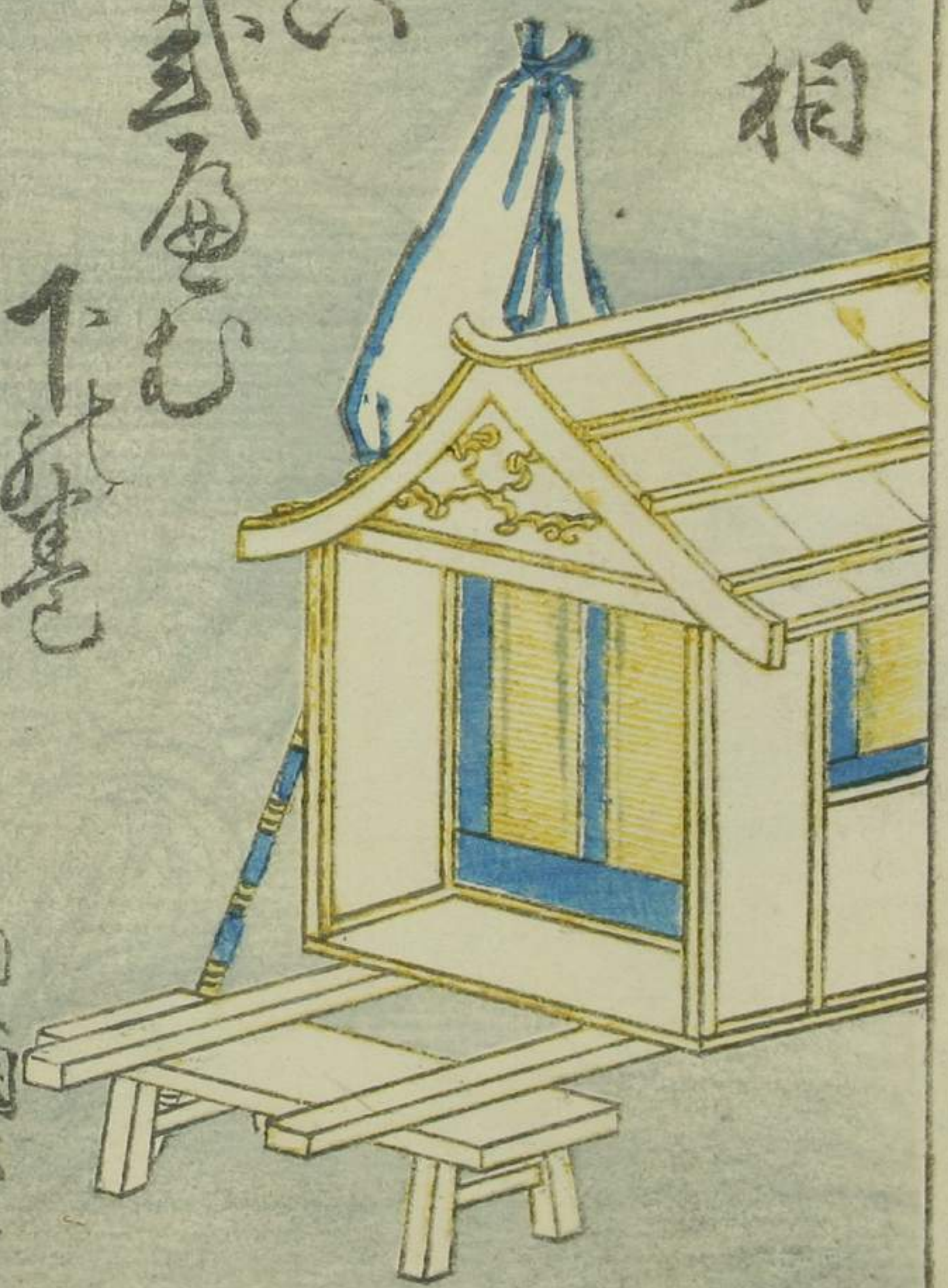
豊國画

西の春

元大坂町代比

門人國政画

上野屋重蔵發行



釋迦八相倭文庫拾二編の序

夫悉達太子靜夜健陟小跡車匿と俱して恩愛の大河を踰れば

帝釋及び四天王駒の前後を圍繞して一夜のうちか二千二百余里を經

て檀特山の寶嶺跋伽仙林に至り寶冠瓔珞等を車匿に渡り父

王送り御劔を拔て自髮を剃りて仙家の草衣を着し一時小帝

釋太子の髮を天上へ抛て塔を建さる車匿の太子の姿を見てふる哭

し健陟も悲鳴して了に別れて京師へ歸る八相のうち是を第四の出

家といふは是等の經説を擬さ編を成りて出ぬる時も内と

嵯峨の釋迦東都ふちて用扉の折るるれいと急迫く例の板

元が催促の使を待せて仮そのより書とかれ加ふるあつて

嘉永二年己酉の春

力亭應賀誌





右將軍

舎人
車匿



檢非違使

右將軍
御車
檀特山
案内
車匿を
御迎ひ
参る

丁御車を
御車を
御車を
御車を

老女
南花
女

彌曇轆



方の

優夷
夫
轆曇
彌
伯
吟味



優夷
夫

角

優夷
夫



立合

提婆
連
家
伯

雜式
取



上ノ事ハ
 此ノ事ニ
 同シト云フ
 事ナリ

[illegible]



木下八重子



木下八重子





[illegible]

應賀作
豐國画

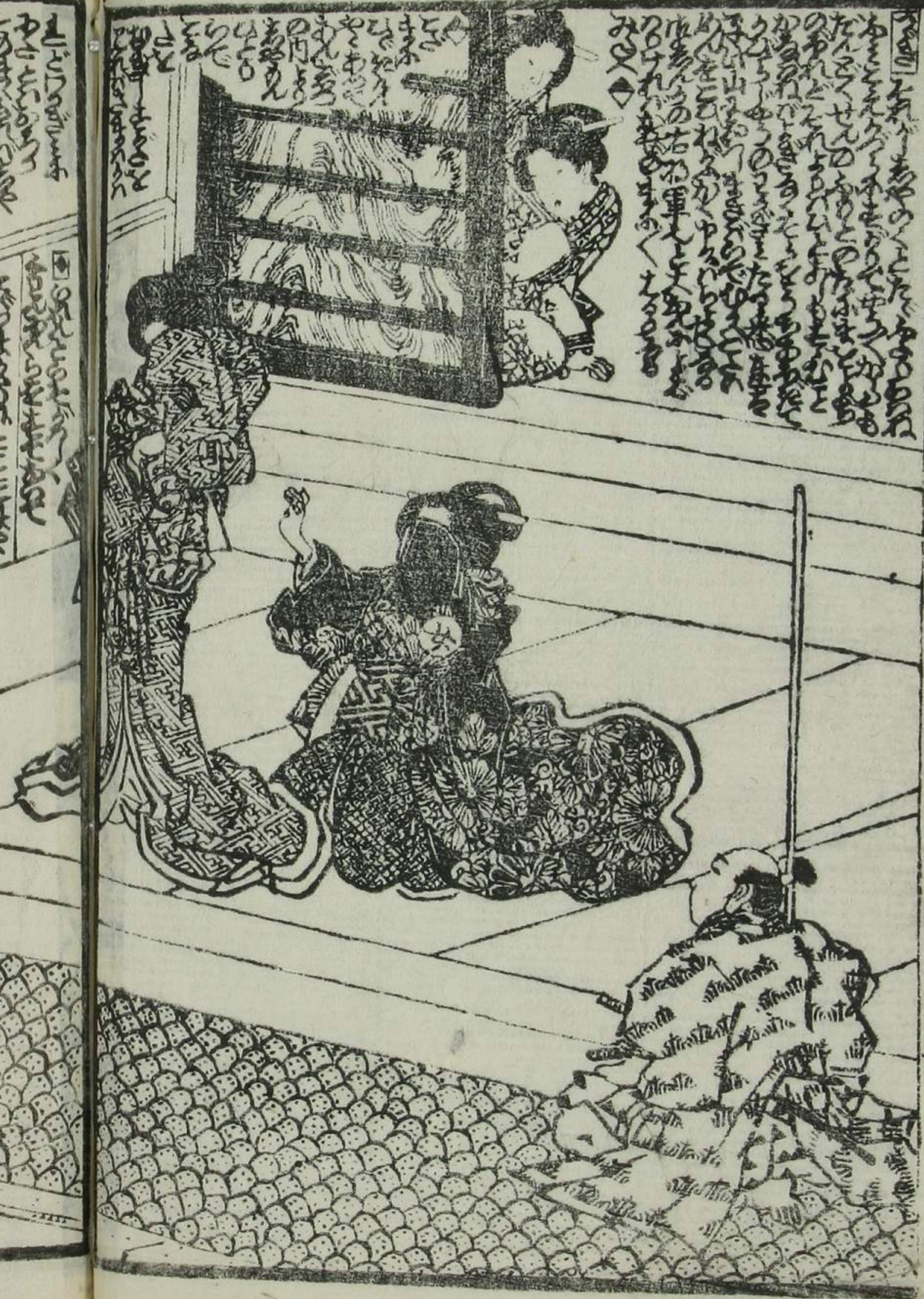
[illegible]

のみり
 るにを
 やうくう
 まつとく
 おひりやう
 らいりゆうまう
 ねえ南花のきかう
 がいかれどさあはし
 つれづれにあふけか
 せんすりのものを
 きりくせよことるこ
 いちとうじょうのや
 甘きけてきこうもめ
 タヤびそんやまり月と
 うんハナさいせんう
 んんたよりきこえて
 とろけるはらうの
 れがむくきこのめ
 やまてころゆめいろ
 なしとまきのま

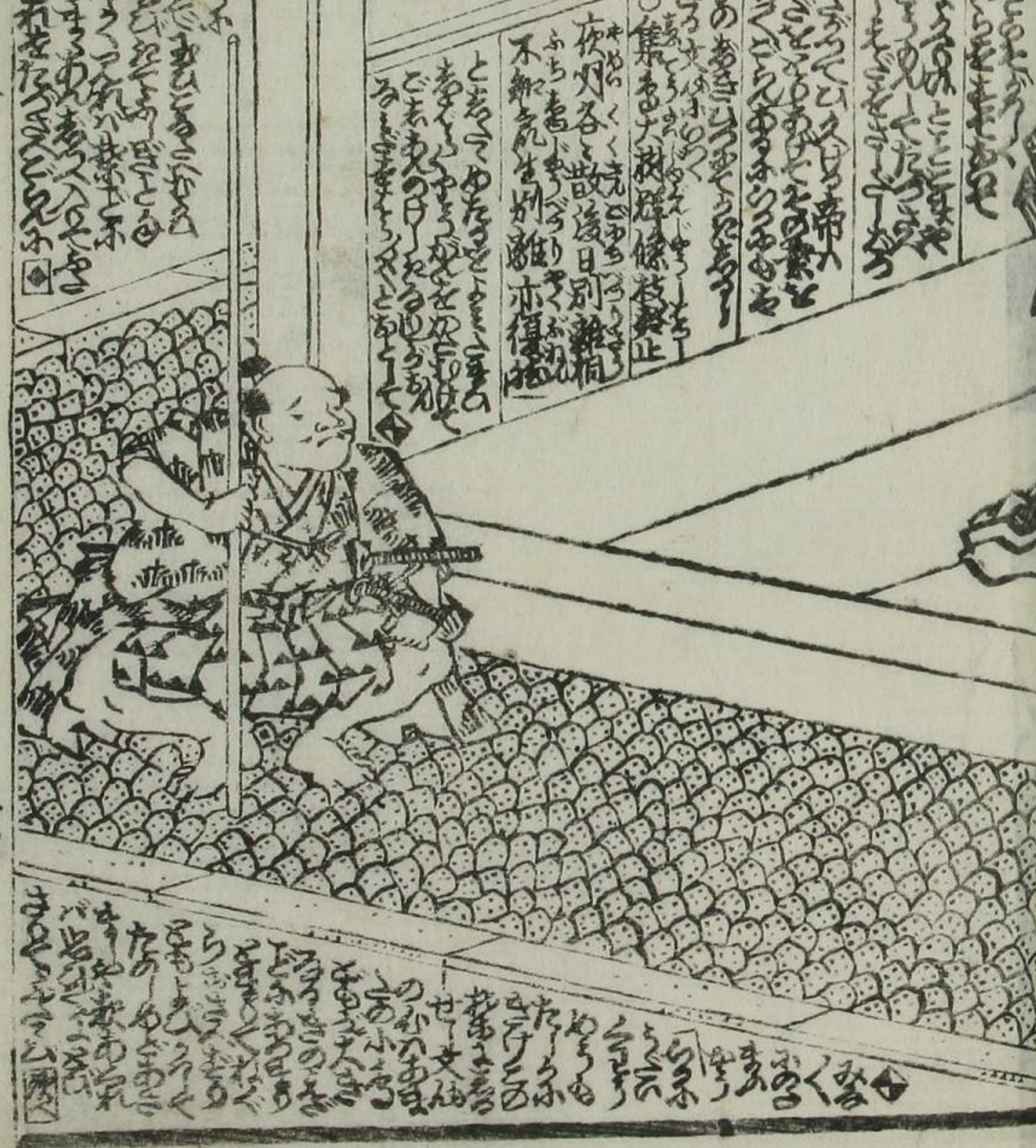




[illegible]

[illegible]

子のおきひつてゐたあやう
 集も大枝輝條枝興止
 夜刈各々散後日別離桐
 不離氣生別離亦復離
 とあるやうなうたをよみてゐる
 ところからいふと、その歌は
 ともあるのうたであることが
 分る。

[illegible]



木下

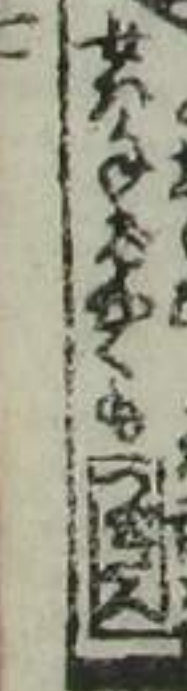
一五

卷之五



10. 11. 1900

己未年八月廿四日

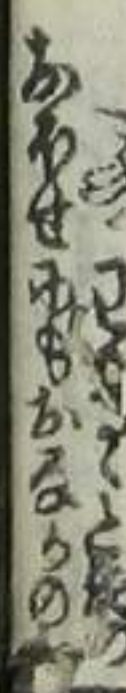


四

傳



鼎

[illegible]

ちいかなるがよいとある
 はそしげきとあるとの
 まひがちうとある



委文車十二

十一

